

事例20

ふるさとの森づくり

DATA
 場所：福島県いわき市平宇下神谷地内(常磐バイパス終点部)
 実施者：磐城国道工事事務所 地域づくり相談室 [TEL (0246) 23-2211]
 参加者：いわき市立草野小学校4～6年生、平第六小学校4～6年生等 700名
 実施日：平成12年3月15日
 学習時間：2時間

関係する分野
 環境 交通 社会 地域 歴史 福祉 健康

背景

地球温暖化や沿道環境、自然環境保全の観点から、今後の道路政策「緑のみち」づくりを重要課題として取り組んでいます。その一環として、国際生態学会会長の宮脇昭博士の「ふるさとの森づくり」理論を実際に行う試みとして、一般国道6号常磐バイパス終点部に地元小学校の児童をはじめとする市民参加による植樹を実施しました。

内容

地球にやさしい「緑のみち」づくりをすすめ、よりよい環境を創出するため道路緑化を実施しました。苗木については、地元で生育しているシラカン、タブノキなど24種類、約1万本を植樹しました。ドライバーや歩行者に潤いを与え、沿道環境を保全するとともに、二酸化炭素などを吸収し、地球温暖化の防止にも貢献します。



みんなで力を合わせて植樹します



苗の根と土壌を守るためわら束を敷きます



1万本もの植樹が行われました

ポイント

- 直接自分の手で植樹することで責任感を持つことができ、将来の森への期待が膨らみます。
- 地元の木の種類を知ることができ、緑を身近に感じることができます。
- 道路沿いの環境に対する感心を高めるきっかけとなります。

成果

自分たちが直接植樹した苗木への愛着と喜び、また自然への関心が深まりました。参加小学生の感想文をまとめて発行したり、住民参加の大規模な催しとあって注目度も高く、地元新聞に掲載されるなど大きな反響がありました。

参加者の声

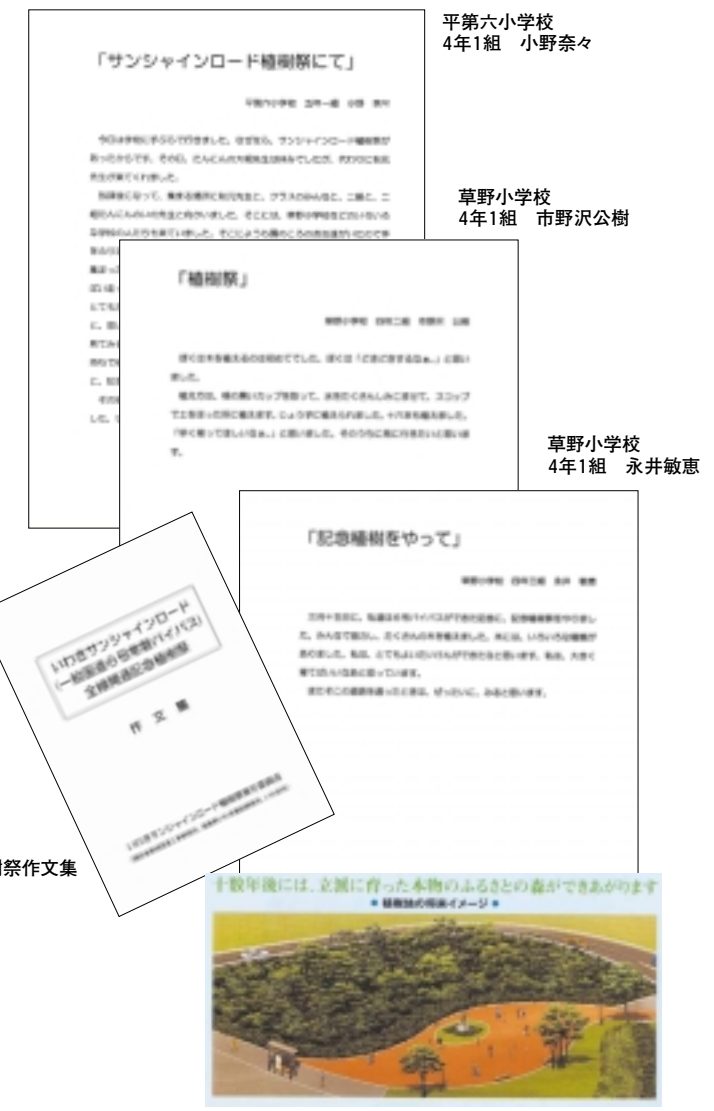
「何年かたったら、どんな木になっているか楽しみです。太い木になってほしいです。」
 (いわき市立草野小学校 4年生)

「国道6号を通るたびに植樹祭の時のことが思い出されます。私達にとって植樹祭のことは、一生忘れない思い出です。」
 (いわき市立草野小学校 5年生)

「つかれたけど、はじめて植樹をしたのでいい記念になりました。今、時々その近くを通るとき見ると、少しだけ大きくなったかなという気がして、何十年後にどのようになっているのが楽しみです。」
 (いわき市立草野小学校 5年生)



平成12年3月17日 福島民報社



記念植樹祭作文集

次のステップに向けて

- 将来の自分たちの生活環境を保つため、また道路建設で失われた緑を復元するため、沿道への緑化を積極的に行うとともに森の管理についても、地元の人たちと共同で行うような体制も検討しています。子供たちに関心を持ってもらえるよう「緑のみち」づくりを子供たちと一緒に活動したり、自分たちを取り巻く環境について考える機会を作ることが大切です。
- 地域の自然植生について学習を広げていくことも考えられます。
- 樹木の成長を経年的に調べるなど、育て見守る喜びを学ぶことも考えられます。